

CEReSニュースレター

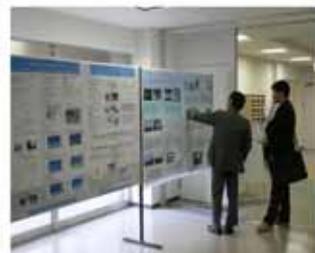
千葉大学環境リモートセンシング研究センターニュースレター
2005年12月号

CEReS 公開が行われました

去る11月2日から4日の千葉大祭期間中に、環境リモートセンシング研究センターの一般公開が行われました。西尾研究室による氷の物性のデモンストレーションや、本多・梶原研究室によるラジコンヘリの展示、高村研究室による熱赤外撮影サービスなどのほか、多数のポスター展示が行われ、学内の職員・学生をはじめ、大学祭でキャンパスを訪れた地域の方々に、当センターの研究活動を知ってもらうよい機会になりました。

主な展示は次のとおりです：

- ・ 上映：宇宙から地球を見る（石山）
- ・ 宇宙から見た千葉市周辺：超高解像度衛星 QuickBird による（石山）
- ・ 幕張メッセ周辺 / 熱帯雨林の QuickBird 画像（建石）
- ・ あつくなる北極と南極 / リモセンから何がわかるか（西尾）
- ・ 地球大気の変化を測る（高村）
- ・ 実演：あなたの温度は（高村）
- ・ 宇宙から見る千葉県（近藤）
- ・ レーダで地球を見よう（ヨサファット）
- ・ レーザー光で大気を観る（久世）
- ・ 千葉の空はどれだけ汚れているか（竹内）
- ・ ヘリ展示：無人ヘリコプターによる地上測定（本多・梶原）
- ・ 宇宙から農地を調べる（本郷）

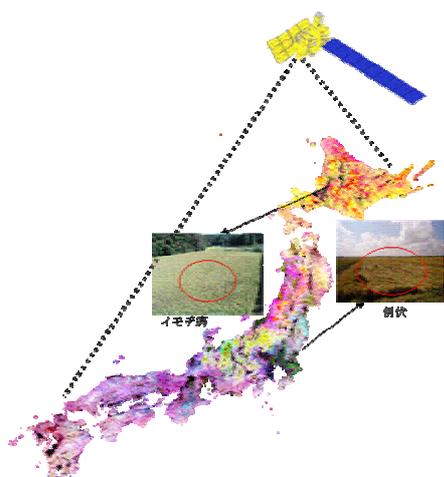


センター公開風景

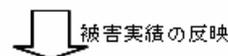
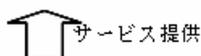
リモートセンシングの農業利用 「イネの異変を宇宙から点検」 朝日新聞の夕刊に掲載されました

11月17日付けの朝日新聞夕刊一面に、千葉大環境リモートセンシング研究センター（本郷千春助手）、宇宙関連企業の宇宙技術開発（東京）が、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の協力を得て、宇宙からイネの病虫害や風水害、冷害の発生状況をチェックするシステム作りを目指した研究を開始し、2008年から被害の多い都道府県で利用する予定である、旨の記事が掲載されました。

宇宙に関連したビジネスモデルを主眼とした JAXA の「宇宙パートナー制度」に採択された本事業「衛星と地上観測設備を組み合わせた水稲の被害率算定システムの実用化モデルの構築」のコンセプトは、衛星画像を農業分野の実業務で通常的に活用し、ビジネスとして成立させることです。具体的には、水稲の被害率算定の効率的な手法の開発と、算定結果の客観性の確立に向けて、衛星画像を利用し時には地上観測データを組み合わせた、農業共済金給付のための被害率算出モデルを構築することを目的としています。また、開発したモデルをもとに、実利用に向けたプロトタイプシステムを構築し、最終的には全国で利用できるシステム作りを目指すものです。



顧客名：〈社〉全国農業共済協会 294組合
（43道府県農業共済組合連合会と4都県特定組合）
ニーズ：農業（水稲）における保険業務への衛星画像の利用
衛星画像利用による水稲被害率算定
・ 損害評価員及び関係機関の職員の負荷軽減
・ 被害率算定に客観性を持たせる
地 域：日本全国
期 間：4月～11月間は保険業務に利用
その他の月は圃場の基礎情報収集等に利用



企業名：宇宙技術開発（株）
業務内容：
①被害率算定システムの運用維持管理
・ システムの運用
・ システムの改善
・ ヘルプデスク（対顧客）
②被害率算定に係わる情報管理
・ 衛星画像、被害情報の入手
・ 被害地情報収集依頼
・ 被害率算定結果の提供
③圃場基本情報の管理
・ 情報のメンテナンス



研究所：中央農業総合研究センター
・ 被害率算定モデルの精度向上
・ モデルの地域別調整
大学：千葉大学
・ 衛星他画像解析に関わる精度向上
・ 被害率算定に関わる精度向上

事業概要図

（次号の予定）

2006年1月号では、12月12日に行われた平成17年度環境リモートセンシング研究センター共同利用研究会と、同13日、14日に行われた第11回 CEReS 国際シンポジウムについてお伝えする予定です。